

— 令和 4 年度 —

石巻地区沖合底曳網漁船組合員大会

7 月 29 日、連日の猛暑が続くなか、全日本海員組合東北地方支部で「石巻地区沖合底曳網漁船組合員大会」を開催した。コロナ禍での大会開催のため、マスク、アルコール消毒など新型コロナウイルス感染症の感染防止を徹底した上で、各船からの出席者も絞り、アクリル板の設置など、ソーシャルディスタンスに十分配慮した

山積する諸課題の解決に向けて一致団結

大会は、はじめに金子友貴広海上技術部員の司会に始まり、中野宏俊執行部員を議長に選出した。続いて高橋雅幸東北地方支部長が「次々に新たな変異株が現れ、新型コロナウイルス感染症の終息が見通せない日々が続いている。本組合員大会は、休漁期間という限られた時間を利用し、海員組合の一年間の活動に対する理解を深め、次年度の活動と労働協約改定要求について話し合う大変重要な会議となっている。コロナ禍の中、長時間の会議は好ましくないということもあるが、出席者各位におかれては、感染症対策の一環として、短い時間の中でも、内容を凝縮した会議となるよう各段のご協力をお願いしたい」と、あいさつを述べた。

その後、議事次第に従って、令和 3 年度の活動報告・概要として、

▽水産部の活動および東北地方支部の活動

▽令和 3 年度労働協約改定交渉の経過—などを説明し、質疑応答の中で理解を深めた。

次に令和 4 年度水産部門の活動方針（案）として、

▽政策課題への取り組み

▽漁船の代替建造への取り組み

▽生産者魚価の確立と漁業用燃料油高騰への対策

▽水産部門の国際活動

▽海難事故の撲滅と安全な漁業労働環境対策

▽漁船員の後継者確保・育成対策

▽令和 4 年度労働協約改定要求（案）の提案—などを説明し、質疑応答の中で理解を深め、満場の拍手で確認された。

最後に、沖合底曳網漁船を取り巻く環境は依然として厳しい状況が続いているが、山積する諸課題の解決に向け、現場組合員と執行部が一丸となり取り組むことを確認し、「令和 4 年度 石巻地区沖合底曳網漁船組合員大会」を終了した。

「海員だより」